令和元年度 新型コロナウイルス感染症患者移送 「初めての移送の現場から」

○上村 栄美 松岡 まり子 橋本 学 坂野 英男(衛生研究所業務課)

<はじめに>

衛生研究所業務課は旧生活衛生センター当時から、平成 15 年度の SARS (重症急性呼吸器症候群) 発生を踏まえ一類感染症等の移送や消毒の訓練を重ねてきた。今回の新型コロナウイルス感染症以前では、平成 21 年度において新型インフ

ルエンザ (A/H1N1) 発生時の移送実績があり、移送件数は57件 (疑似症を含む) であった。今回、令和2年2月中旬から令和2年3月末までにおける新型コロナウイルス感染症の移送を初動として評価及び課題を整理したので報告する。

<新型コロナウイルス感染症対策 初動の時期における状況>

	7.1/2/心战未進/1/来 [//到1/2 rd/ 为1/0 rd/ 3/1/0 rd/	
令和元年		
12 月以降	中国武漢で新型肺炎感染症を認める。	
令和2年		
1月16日	神奈川県で国内感染者を認める。	
2月 3日	<u> 局感染症対策室から情報提供があり、所長の指示により患者移送の自主訓練を開始</u>	
	した。以降、毎週合同訓練を実施。	
2月13日	新型肺炎が新型コロナウイルス感染症(指定感染症)となる。	
2月18日	愛知県がダイヤモンドプリンセス号の乗客のうち症状の軽い7名を県内の指定医療機	
	関へ入院を受け入れる。	
2月19日	愛知県がダイヤモンドプリンセス号の乗組員・その家族128名を県内の指定医療機	
	へ入院を受け入れる。	
中旬	生活衛生センターにおける第1例目、感染症対策室の指示で簡易アイソレーターを	
	利用し自宅から医療機関へ移送する。	
2月20日	所長から"全防疫"体制を発令。全職員新型コロナウイルス感染症対策体制となる。	
3月13日	緊急事態宣言が成立(新型コロナウイルス対策の特別措置法に基づく)	
3月末まで	移送の種類は、外来受診 11 件(25%)、入院 26 件(59%)、転院 7 件(16%)	

<目的>

次の新型インフルエンザ等感染症の移送に備えるために、初動移送をどのように行ったかを振り返る。

<方法>

- ①令和 2 年 2 月 19 日~3 月末までの移送記録の 分析 図1・表1参照
- ②自記式アンケート

初動時を経験した職員全員(転勤者を含む)へ 当時不安に思った事ことが「ある」か「ない」か、 その他の意見や1年を振り返った意見のアンケートを実施。アンケート結果を KJ 法で分析 (時期:令和3年3日3日~3月10日まで。17名配布12名回収)

<結果>

①移送記録の分析

44 件の平均出動時間は 152 分(2 時間 32 分)であった。中でも外来受診では、受診時の待ち時間及び患者宅までの送りもあり、移送時間が長くなる傾向があった。なお、最大出動時間は外来受

図1 移送の種類

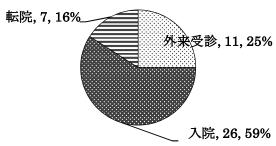
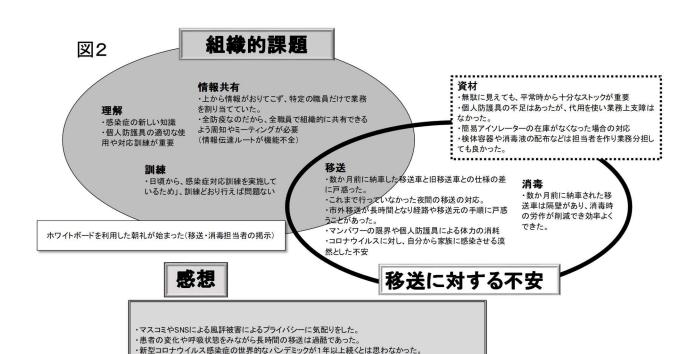


表1 出動時間

以:自为的			
	平均(分)	最大時間(分)	
外来受診	188	325	
入院	144	215	
転院	123	190	
総計	152		



診の 325 分 (5 時間 25 分) であった。初動の入院では、市外の第二種感染症指定医療機関の移送も6件あり、入院移送でも最大出動時間が215分 (3 時間 35 分) と移送時間が長くなる場合があった。

②自記式アンケートを KJ 法で分析 図2

「組織的課題」「移送に対する不安」「感想」に分類した。

「組織的課題」について、情報の共有の手段とし

て令和2年4月からホワイトボードを利用した朝 礼を始めるなど、課題解決に向けた試みを順次行 っているところである。

<まとめ>

今回の初動時の移送も、大きな不安なく実施できたのは普段の業務の積み重ねだと実感している。今後は、経験に甘んじることなく、謙虚に訓練にまい進すれば次回の感染症に対しても対応できると考えている。